

主催：京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター

協賛：関西日仏学院 東西日仏学院 ヴィラ九条山 Villa Kyujyusan

ポルトガル大使館 2010年日本ポルトガル修好通商条約150周年記念

協力：SPACE 静岡県舞台芸術センター 日仏演劇協会

後援：東京日仏学院 L'INSTITUT 東京日仏学院 フランス大使館

2010年6月19日[土]・20日[日]

15:00 開演 (ホワイエ開場=14:20)

京都芸術劇場 春秋座 舞台上 (京都造形芸術大学内)

※上演時間：約110分 仏語上演・日本語字幕あり

※演出の都合上、開演後の入場は制限される場合がございます。予めご了承ください。

※通常の入場口とは異なります。詳しくは裏面のマップをご覧ください。

【料金】【整理番号順入場・自由席】4/20[火] 10:00より前売り発売開始!

一般=4,500円/シニア=4,000円/京都芸術劇場友の会=3,500円

学生&ユース=2,000円/瓜生山学園生=1,500円

※当日は各500円増 ※未就学児入場不可

※整理番号順入場のため、開演20分前には会場にお越し下さい。

※シニアは60歳以上、ユースは25歳以下対象 ※シニア、学生&ユースは要証明書提示



6月19日[土]

ポストパフォーマンストークが決定!!

クロード・レジ × 渡邊守章

(演出家)

(京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター所長・演出家)

# 海の讃歌

オード

- ODE MARITIME -

フランス演劇界の巨匠 クロード・レジ初来日公演!

「演出」クロード・レジ 「作」フェルナンド・ペソア 「出演」ジャン＝ロカンタン・シャトラン

「私は夢なのかも知れない。誰かが、別の世界で、私のことを夢見ているだけなのかも知れない。」

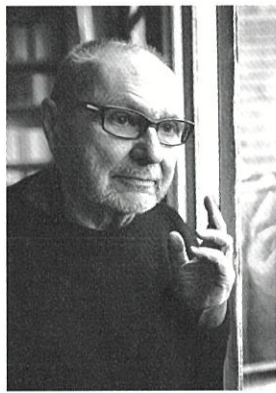
誰もいない波止場に立つ詩人は眺めている、(得体の知れないもの)を...

ポルトガルの詩人、フェルナンド・ペソア(1888-1935)の80行を越える長篇詩が、フランス演劇界の巨匠クロード・レジの演出によって、春秋座の舞台上に立ち上がる! 昨年初演され、アヴィニヨン演劇祭でも話題をさらったレジ最新作です。



# 海の讃歌 - ODE MARITIME -

演出：クロード・レジ  
Claude Régy



© Mario Del Curto

フランスの演出家。1923年生まれ。特定の劇場や劇団に属することなく、独自の理念で、主に同時代の作家の作品を上演し続けてきた。1952年から活動を始め、初期にはガルシア・ロルカやメーテルリンクなどを演出していたが、1960年代にマルグリット・デュラスの作品と出会い、マドレーヌ・ヌー主演『イギリスの恋人』（1969）『エデン・シネマ』（1977）などを演出。さらに1965年からはピンター、オズボーン、ストップワードなど英米の作品を手掛け、1970年代以降はナタリー・サロート作品上演の一方で、ベーター・ハントケ、ポート・シュトラウス（『再会』の三部作）1980などのドイツ語圏戯曲の紹介にも勤める。メーテルリンクの『内部』（1986）やアンリ・メシヨニック訳の聖書の一部をもとにした『賢者の言葉』（1995）では、言葉や声に関する徹底した探求の成果が見られた。近作では、語り得ぬ体験であるナチ強制収容所を語る『ホロコースト』（1998）、ノルウェーの現代作家ヨーン・フォッセの『だれか、来る』（1999）やサラ・ケイン『4時48分サイコンス』（イザベル・ユベール主演、2002）などで刺激的な舞台を作って好評を博した。1981年以降、パリ国立俳優学校（コンセルヴァトワール）教授。その著作によっても、多くの若い演出家や俳優に影響を与えている。

作：フェルナンド・ペソア (1888-1935)  
Fernando Pessoa



ポルトガル出身の詩人。リスボン生まれ。5歳のときに父親を亡くし、母親が南アフリカの領事と再婚したためダーバン（南アフリカ共和国）へ移り住む。ダーバンで育ち、その後、大学で学ぶためリスボンへ戻り、以降ほぼリスボンを離れることはなかった。『ペソア』という名前以外にも、『カエイロ』『レイス』『カンボス』などの筆名で創作し、それらの筆名ごとに独自の作風を作っていることで知られる。尚、『海の讃歌』は『カンボス』の名で1915年に発表された作品である。生前はわずかな理解者しか得ることができなかったが、死後、その膨大な遺稿が刊行されるにつれ、多くの人々の注目を集めるようになった。現在は20世紀前半の代表的な詩人と評価される。邦訳に『ポルトガルの海-フェルナンド・ペソア詩選』（彩流社）、「不安の書」（新思案社）などがある。

出演：ジャン＝クタン・シャトラン  
Jean-Quentin Châtelain



スイスの俳優。ジュネーブ演劇学校、ストラスブール国立演劇学校を卒業後、フランスやスイスでクロード・レジ、ジョエル・ジョワノー、ヴァレール・ノヴァリナなど数々の演出家の作品に出演。映画俳優としてはクレール・ドゥニやアンジェイ・ワイダの映画に出演している。これまで、レジ演出作品には『サタンの怖ろしい声』（グレゴリー・モットン作、1994）『鶏にナイフ』（デヴィッド・ハロワー作、2000）『目的のない男』（アルネ・リグ作、2007）の三作品に出演している。

## フェルナンド・ペソア

文：クロード・レジ

「おお、わが幼年期の過去よ、壊されてしまった人形。」

御伽噺のなかのように、ペソアの作品は、小箱のなかで眠っていたが、そこには、彼が毎日書いていた紙葉が積もっていたのだ。

世間的な名声はすべて—きわめて稀な例外を除けば—生きていた限り彼には拒否されていたから、現代における最大の詩人の一人の発見は、ペソアの家の中央にあるトランクの中に閉じ込められたあれらのページの整理と編集によってなされるほかはなかった。

彼自身、時として、さまざまな作品のための制作順序を予想したりもしたが、「すべての事柄をすべて感じ取る」ことを望んだ彼の存在は、そこに到達するために、別の自分自身を作り出す力を持っていた。そうした別の自分自身のために、彼は考え出したのだ、それに固有の伝記を、肉体的特長や性格を、あい異なる文学理論を（したがって哲学理論でもあったが）、別のものとしての生成を、である。

そしてそれ故に、異なる氏名の一つ一つが—しかし彼自身も例外ではない、本名を名乗るペソア自身もである—極めて多様かつ膨大な作品を残した。彼の亡くなったのは、1935年11月30日、47歳であった。

輸出業務所で、商業文の手紙を翻訳することを生業としていたこの男は—彼は完璧な英語を話した—現実というものを、彼の想像力が生み出したものの中にしか見出さなかった。

まさにそこで、つまり想像力のなかで、彼は生きていたのだ。

それ以外には、リスボンの街路を歩き回り、あるいは夜遅くまで河岸のあたりを散策していたのである。

彼にはそれだけで充分だった—まさに『海の讃歌』の冒頭である—一艘の船が、まだ遠く彼方に見えているにすぎない船が、港の入り口に向かって進んでくる、それだけで、すべての距離が、ありとあらゆる距離が、打ち震え始めるのだ。船を河岸から隔て、沈黙と言葉を隔て、現在を過去に対立させるものが、全て境界というものの痕跡が全て、身体と魂、内面と外界、到着と出発、現在と過去、生と死、こうした全てが入り混じり、錯綜して、途方もなく巨大な息の攪拌となる。叙情的な息が、嵐となって立ち上がるのだ。竜巻のなかで再生するのだ、残忍さ、殺戮、略奪、殺人、犠牲者、女を犯す海賊も、犯される女も、鯨に投げ与えられる犠牲者も、共に投げ込まれる幼子たちも—ピンク色の柔らかい肌の幼子—、例外は、四歳児であり、人住まぬ島に生きたまま埋められるのだ。

ペソアとは、ポルトガル語で「ペルソナ」あるいは「舞台の仮面」を意味する。彼の旅は、彼の性生活は、実現しない。彼の精神こそが、彼をサド＝マゾヒズムの限界の過剰さへと高めるのだ、巨大な波頭に、性差の区別のない地点へと。

「もうよい！ 俺の錯乱に合致して行動出来ないなどは！」それは叫びだ。《絶対》の叫びであり、《抽象》の叫びである—抽象的であるからこそ絶対であり、つまり個別的なものを越えた何物かである。

ペソアは、われわれの知覚の仕方を根底から揺さぶる。われわれの生き方を、である。

身体は思考する。彼は魂の生を生きている。彼の肌によって。彼の神経によって。彼の血によって。力—強度—概念が取って代わるのだ、老いたアリストテレスの抱いた《美しきもの》の概念に。

2008年10月 訳：渡邊守章

●「彼方へ 海の讃歌」静岡公演情報（SPAC-静岡県舞台芸術センター主催）6月11日〔金〕・12日〔土〕・13日〔日〕 18:30 開演 舞台芸術公園 屋内ホール「精円堂」●

2010年6月19日〔土〕・20日〔日〕  
15:00 開演（ホワイエ開場=14:20）

京都芸術劇場 春秋座 舞台上（京都造形芸術大学内）

※上演時間：約110分 仏語上演・日本語字幕あり  
※演出の都合上、開演後の入場は制限される場合がございます。  
予めご了承ください。  
※通常の入場口とは異なります。詳しくはマップをご覧ください。

【料金】【整理番号順入場・自由席】  
一般=4,500円/シニア=4,000円/  
京都芸術劇場友の会=3,500円/  
学生&ユース=2,000円/  
瓜生山学園生=1,500円

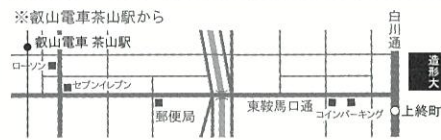
※当日は各500円増 ※未就学児入場不可  
※整理番号順入場のため、開演20分前には会場にお越し下さい。  
※シニアは60歳以上、ユースは25歳以下対象  
※シニア、学生&ユースは要証明書提示



京都芸術劇場  
モバイルサイト

【前売開始】  
4月20日〔火〕 10:00

【チケット取り扱い】  
□京都芸術劇場チケットセンター  
075-791-8240（平日10時-17時）  
□京都芸術劇場オンラインチケットストア  
※要事前登録（無料）  
<http://www.k-pac.org/>（PC）  
<http://www.k-pac.org/theatre/m/m>（携帯）



- JR・近鉄京都駅、京阪三条駅、阪急河原町駅から  
京都市バス5番「岩倉」行き乗車、  
「上終町・京都造形芸大前」下車  
（京都駅から約50分、三条駅・河原町駅から約30分）
- 京都市営地下鉄丸太町駅・北大路駅から  
京都市バス204循環に乗り、  
「上終町・京都造形芸大前」下車（約15分）
- 京阪電車出町柳駅から  
叡山電車に乗り換え、茶山駅下車 徒歩約10分

※駐車場はございませんので、お車・バイクでの  
ご来場はお断りします。

